

8) 県内の特徴的な動き(平成21年度)

(1) 日本短角種の「有機畜産物JAS」認定

青森県七戸畜産農業協同組合では、地域飼料資源の有効活用による高付加価値化を目指し、平成15年度から、農薬や化学肥料を使用せずに生産した飼料給与と放牧で日本短角種を育てる「有機牛肉生産」に取り組んでおり、平成21年12月24日に、北海道有機認証協会から、有機畜産物JAS規格の「生産行程管理者」に認定された。



広々とした放牧地



自給のトウモロコシ

(2) 乳牛の給食センター(吹越台地資源循環型TMRセンター)の整備

国の畜産担い手育成総合整備事業を活用し、吹越台地飼料生産利用組合が総事業費約10億円をかけて地域の酪農家へTMR飼料を供給する施設を整備した。

TMRセンターの運営については、吹越台地飼料生産利用組合の組合員15戸で設立した「株式会社デリーサポート吹越」が行っている。サイレージ用とうもろこし160haと牧草263haを作付けし、サイレージ調製を行い、TMR飼料の原料としているほか、りんごジュース粕や稲発酵粗飼料などの地域飼料資源を利用してTMR飼料を製造している。

生産されたTMR飼料は組合員15戸に毎日配送され、飼料生産コストの低減や、労働時間の短縮に結びついている。

「施設の概要」

- ・ TMR飼料製造施設(TMR飼料製造能力90トン/日)
- ・ バンカーサイロ20基(うち6基は平成22年建設予定)
- ・ 飼料保管庫(平成22年建設予定)
- ・ 粗飼料生産調整用機械及びTMR飼料用作業機械16台

